

### 3. 7 新潟県での活動

#### 新潟県健康生きがいくくりアドバイザー協議会

##### 1. 事業の概要

###### (1) 事業の目的

「東日本大震災で被災地県外に避難されている方々が、住まいや就労をはじめとした生活安定を確保すること」を目的に、「避難先である自治体内での団体形成、団体間の相互連携を支援するとともに、必要とされながら届きにくい国の支援政策の情報提供と活用の支援」を実施する事業で、新潟県内（6,700人）で特に多くの避難生活を余儀なくされて住居されている新潟市内を（2,500人・980世帯）対象として、「こころのケア」を中心とした「元気村」（たまり場）を開設して、情報交換や被災者交流、こころの相談等、そして心や体の「安らぎ」や「癒やし」に寄り添って、被災者の元気回復に寄与することを目的とする。

###### (2) 実施体制、他団体との連携、他地域との連携状況

被災者住居の多い新潟市内を中心に情報交換、後援、事業協力の関連先

- 新潟市役所 防災課 ・ ・ ・ ・ ・ 中央区役所  
・ ・ ・ 西区区役所  
・ ・ ・ 江南区役所 （秋葉区役所含む）  
・ ・ ・ 東区役所 （北区役所を含む）  
・ ・ ・ 南区役所 （西蒲区役所を含む）

※上記5区は被災者が多い区で、福島県からの被災者より新潟市嘱託員（見守り隊員）に任命設置されている区である）

- 新潟NPO協会 ・ ・ ・ 東区 ふりっぷはうす
- 新潟市社会福祉協議会
- 新潟市被災者交流団体 ・ ・ ・ 西区 うつくしまくらぶ  
・ ・ ・ 東区 新潟石山おやこ劇場  
・ ・ ・ 南区 クローバー
- 新潟県健康生きがいくくりアドバイザー協議会  
・ ・ ・ 実行委員会及び会員 85名

新潟市役所の防災課より、毎月2回の被災者宅への配布物等の配達時に「元気村イベント・案内チラシ」を配布し、5か所の区役所に設置してある「見守り隊員」に各回のイベント案内チラシで来場を依頼して貰う。そして、各団体には後援、協力を要請して其々とのネットワークと協力体制を構築した。

### (3) 事業の実施内容

被災者に対して、こころのケアを主体に、こころの拠りどころの「たまり場」として「元気村」を随時開設して参加者との交流を通し「安らぎ」や「癒やし」を提供する事業を企画した。

各回イベント毎に各々の参加スタッフの得意分野を活かして、被災者の気持ちに添える様な各種のイベントを企画・担当して参加者に楽しんでもらい、少しでも気分転換がなされるように、「元気村」を開設して実施した。

#### ●第1回開催イベント

平成24年8月25日(土) 10:00～15:00

被災者が「安心・安全」に生活が出来るように、そして「前向きに生きがいを持って、生きる力を持てるように」をモットーに中高年を中心に全避難者を支援。

「元気村イベントメニュー」

- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| ☆ 郷土料理をみんなで料理を     | ☆ リフレッシュ「操体法」   |
| ☆ ストレッチング・ゲーム・小運動会 | ☆ 中高年向き・碁・将棋    |
| ☆ ニュースポーツ「カーリング」   | ☆ 悩みのこと「なんでも相談」 |
| ☆ 心と体を癒やす「タッピング」   | ☆ お話会・お茶会       |
| ☆ 「佐渡おけさ」の踊り交流会    | など              |

※各スタッフの得意分野を活かして、各々のイベントを担当して実施し、テーブル・椅子を60人分配置して、被災者同志、被災者とスタッフとの情報交換・地元の状況・今後の生活等についての意見交換や交流を活発に行った。

また、各イベントは参加スタッフの創意工夫と技量を発揮して好評を得た。



### ●第2回開催イベント

平成24年10月6日(土) 10:00～15:00

「元気村イベントメニュー」

第1回と同様なメニューで時間帯を組み替えて実施、昼食時に参加スタッフより「ミステリー・マジック」を追加して好評を得た。



### ●第3回開催イベント

平成24年12月2日(日) 10:00～15:00

「元気村イベントメニュー」

第2回と同様なメニューで来場者の時間帯に合わせて組み替えて、参加スタッフより「ダンベル体操」「子供向け遊びの広場」を追加して好評を得る。  
また、なんでも相談コーナーに3件の相談有る。



### ●第4回開催イベント

平成25年2月2日(土) 10:00～15:00

「元気村イベントメニュー」

第3回と同様なメニューで少し組み替えて、参加スタッフより「電子療法」を追加し、協力団体の石山おやこ劇場より「読み聞かせ」・キャラクター縫いぐるみの「豆まき」を追加して好評を得た。相談コーナーも相談有り。



### ●第5回開催イベント

平成 25 年 2 月 23 日 (土) 10:00 ~15:00

「元気村イベントメニュー」

第4回と同様に基本メニューを残し、若干の組み換えを行って、参加スタッフよりゲームの「スカット・ボール」、最終回にて「ビンゴ・ゲーム」を追加し参加者との場の盛り上げと交流を深めて全員が笑顔で、またの再会を期した。



## 2. 事業成果

### (1) 成果

- 参加人数集計

たまり場としての「元気村」被災者の参加者・スタッフ数

回	開催日	開催場所	参加人数	スタッフ数
1	平成 24 年 8 月 25 日(土)	新潟市中央区 万代市民会館	17名	17名
2	平成 24 年 10 月 6 日(土)	新潟市西区 黒埼市民会館	55名	19名
3	平成 24 年 12 月 2 日(日)	新潟市江南区 江南区文化会館	53名	20名
4	平成 25 年 2 月 2 日(土)	新潟市東区 東区プラザ	41名	22名
5	平成 25 年 2 月 23 日(土)	新潟市南区 白根学習館	58名	22名
計	5日間	5ヶ所	224名	100名

※参加者人数累計で 224 名・名前別計で 112 人参加となる。(避難者 2,500 人の累計で 9.0%、名前で 4.5%の参加率)

参加人数は当方の予定していた数より下回ったが、新潟市内の各地で行われている他の支援活動参加者数よりも多い参加者となった様子で有る。それは関係団体・各区役所の見守り隊員経由での依頼や当方から親しい過去の参加者への電話での来場案内で PR・周知を繰り返し行った結果と思われる。

地元新聞社の新潟日報に掲載を当初から依頼したが掲載が遅れ、投稿や記事がタイミング遅れとなり PR、周知には貢献しなかった。

期待した中高年者の参加者が少なく、「ひきこもり」現象と思われ、積極的な PRが必要と思われる。

### (2) 問題点・課題

- ①被災者の名簿が入手出来無い状態の中での PR・周知活動は、月 2 回の市役所の配布物と一緒に案内チラシを配布依頼したが、全体的・地区別の情報が入手不可能で集客対策が立てられずに苦労した。

- ②被災者の個人情報のため個別にイベント案内を出来ずに、対応に苦慮を強いられた。
- ③ネットワークの作り方では、支援事業は小規模多数箇所で行っており、連携をとるのに新潟市も把握をしておらずに連携は必要な所の少数に留まった。
- ④被災者の中で中高年齢者の男性の参加者が少なく「ひきこもり」の対策も必要と思われる。
- ⑤参加者からはイベントを単年度で終了せずに、引き続き継続をとの要望有るが、資金的に現状では難しく今後の検討事項でもある。
- ⑥被災地に帰りたいと希望している方は大半であり、今後の生活の安心を期待する方多く、住宅・生活・就労・賠償保障・家族の問題等の具体化を希望されており、現実的面での対応が困難である。

### **(3) 今後の展望**

- ① 累積数では224名の参加者が有り、「たまり場」的な場所は必要との継続要望も多く有るので、小規模にしての開催や他の団体とのコラボレーションでの開催か、或いは他の団体に協力して行うことも検討が必要と思われる。
- ② メンバーの持っている専門性を活かして相談等の専門的分野で支援することも検討したい。
- ③ 参加された被災者も当協議会の実施事業に自主参加をして貰い、一緒に活動しながら、支援をすることも検討したい。

※上記を含んで現在の協議会活動事業と一緒に活動することが、一番の支援となるものと思われるので十分な検討をして行きたい。

### **(4) その他**

被災から2年を迎えて、「自分のことは自分で何か行動を起こさないと」との動きが少し出て来たようであり、心強く感じている。

今後も少しでも時間を作って支援を行って行きたい。